封に

射水神社社報 平成18年6月発行



ご挨拶

宮 司 松本正 昭

じるのであります。 秋の恵みを与えてくれる自然の偉大さを感 来る土用の灼熱の太陽の御光は万物を育み、 海に注ぎ、 新葉にそぼ降る雨は木立を潤し、 思うことに、これから梅雨の季節に入り、 さが増し心を和ませてくれました。 に春陽に咲き競う園内の桜花は、 させてくれております。この冬は全国的に 吹き新緑の季節を迎え、自然の息吹を感じ は録的な大雪に見まわれましたが、 社を取り囲む古城公園も、 山から川と養分を醸しながら大 海の幸を齎してくれる。やがて 大地を肥 若葉が芽 それ故 今更に 層爛漫

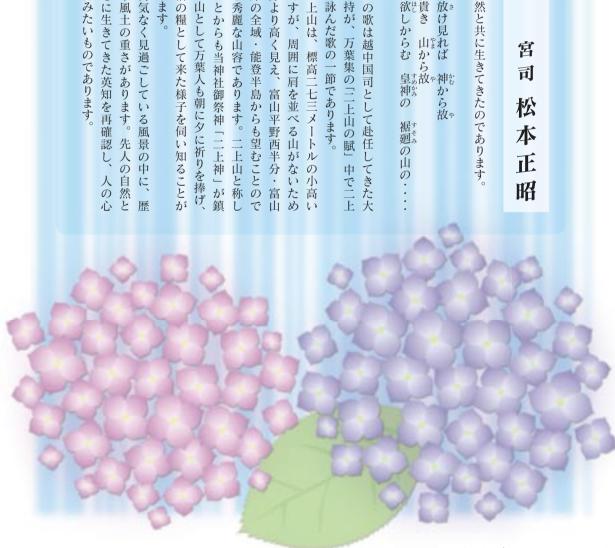
そこに日本人は祭祀という形で神と人との 来ないことを悟り、 が故に人は、 さを表情に出し人に訴えかけてくる。 狂い災害をもたらし、 の自然に祈りを捧げてきたのであります。 自 然は四季折々の循環の中に、 必然に畏敬と感謝の心を抱かせ、 自然の流れに逆らうことの出 連綿と絶やすことなく常 神聖なる神の存在を感 時には優しく美し 時には荒 それ 天

に自然と共に生きてきたのであります。

見が欲しからむ 皇神の 裾がら故 きがなしからむ 生神から故 まかな すからね 裾廻の山の・・・・

生活の糧として来た様子を伺い知ることが 実際より高く見え、 伴家持が、 出来ます。 まる山として万葉人も朝に夕に祈りを捧げ、 たことからも当神社御祭神 きる秀麗な山容であります。 湾岸の全域・能登半島からも望むことので 山を詠んだ歌の一節であります。 ですが、 二上山は、 万葉集の「二上山の賦 周囲に肩を並べる山がないため 標高二七三メートル 富山平野西半 二上神 二上山と称し 分・富 」が鎮 Ш

を育みたいものであります。 ともに生きてきた英知を再確認し、 史や風土の重さがあります。 何気なく見過ごしている風景の中に、 先人の自然と 人の心 歴



講師のご紹介

講師略歴

昭和34年 高岡高校卒

昭和 38 年 國學院大學文学部文学科卒

昭和 44 年 東洋大学大学院博士課程修了

昭和 44 年 東洋大学文学部助手

昭和 48 年 二松学舎大学専任講師

昭和51年 二松学舎大学助教授 昭和 59 年 二松学舎大学教授

昭和60年 高崎博士記念賞を受賞

平成 11 年 二松学舎大学文学部長

(15年3月讫)

二松学舎大学副学長 平成 15 年

(17年3月迄)

平成 15 年 文学博士の学位を受ける



二松学舎大学 教授 文学博士

針原 孝之先生

主要著書

『大伴家持研究序説』 『ことわざの基礎知識』 『越路の家持』

とです。勿論、

神饌も注意して選

ことから、格別な意味を有するも 玉串は祭典の中で捧げて拝礼する び、心をこめてお供えをしますが めて供え、お参りをするというこ 拝礼という形で自らの気持ちをこ しかし、神饌と異なる点は、玉串

『家持歌の形成と創造』

他

玉串の意味について 神 道 教えて下さい 前に て、米・酒・魚 するものとし 玉 一串は 神

いだことが記されています。 かけて、天照大御神の出御を仰 た祀りでは真榊に玉や鏡などを 講演講師には、

本年もまた恒例により、奉賛会の総会を開催し、

その記念

岩屋

(あまのいわや)

とも関連

して

『古事記

隠れの天

います。すなわち天照大御神の 話に求められるものといわれ

岩屋隠れの際に、

神々がおこなつ

「二上山賦と大伴家持」と題して講演を賜わります。

二松学舎大学教授・針原孝之先生をお迎えし

意味があると考えられています。 饌と同様の 塩・水等の神 野菜・果物 お供え

社本庁編)では玉串を捧げるこ こめて捧げるものである」 且つ神威を受けるために祈念を とを「玉串は神に敬意を表し、 のであることが分かります。 しています。 玉串の由来は、神籬(ひもろぎ) 『神社祭式同行事作法解説』(神 と説

あるなどとしています。 は真榊が神霊の宿ります料とし 称したと述べています。このほ ものであったために「玉串」と本来は木竹(串)に玉を着けた た平田篤胤(ひらたあつたね)は、 有するものと解しています。 けぐし)」とし、供物的な意味を が)は、その名称の由来を神前 て、「霊串(たまぐし)」 に手向けるため「手向串(たむ その語源には幾つかの説が こうしたことから玉串は神 六人部是香 (むとべよしか) 本居宣長(もとおりのりな の意が ま

できるのではないでしょうか。 神社新報社刊『神道いろは』より

果たす供物であるということが 合わせる仲立ちとしての役割を 祀られる神と祀る人との霊性を り、また玉串を捧げて祈る人の と同様に神霊を迎える依代であ

気持ちがこめられることにより、

杜の景色 (上半期)

1月1日 歲旦祭 初詣

1月14日

左義長

2月節分 節分祭 (射水の火祭)

2月17日 祈年祭

2月11日

紀元祭

4月18日 日吉社春祭

杜の景色

4月23日 春季例大祭

4月29日 植樹祭

5月13日 悪王子社春祭

6月30日 夏越大祓

人形清祓式

平成十八年豪雪

な豪雪に見舞われました。 ら、十八年年頭にかけて、記録的 富山県では、平成十七年末か

財水神社では、初詣客が安全に お参りできますよう、十二月中旬 より、警察や消防、民間の警備会 社そして除雪に当たる業者などと 連携しながら、駐車スペースの除 雪をはじめ、誘導看板の適切な設 置等、来るべき初詣の対策を講じ ました。

初詣三が日は、おかげをもちまして好天にも恵まれ、例年並みのして好天にも恵まれ、例年並みの



古城公園の桜

「さくら名所百選」にも選ばれる、当社が鎮座する古城公園では、る、当社が鎮座する古城公園では、る、当社が鎮座する古城公園では、る、当社が鎮座する古城公園では、る、当社が鎮座する古、境内にあるの開花は大幅に遅れ、境内にあるの開花は大幅に遅れ、境内にあるの開花は大幅に遅れ、境内にあるに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客の目をに本年も見事な花で参拝客のにある。



春季例大祭

本年も恒例により春季例祭が厳本年も恒例により春季例祭が厳

例祭の所謂「儀式」については 例祭の所謂「儀式」については しゅらい)という打ち合わせを (しゅらい)という打ち合わせを (しゅらい)という打ち合わせを (しゅらい)という作法に準拠し、職は大祭式という作法に準拠し、職

います。

氏)による献幣の模様でござ
武 氏)による献幣の模様でござ



一月

Ξ 日 日 武内出仕、刑務所大祓出向 高岡市護国神社新符清祓式

六 四 日 教化委員会全体会議へ宮司 炭谷権祢宜出向

十 五 十四日 日 炭谷権祢宜、 ·防火訓練 高岡養護学校へ出向

十二日 /\

責任役員会開催

日

初詣交通関係打合会開催

協賛会打ち合わせ

十六日 神社庁高岡·新湊支部神職会 初詣奉仕者打ち合わせ

二十一日 早月中学校雅楽演奏会

祢宜・清水権祢宜出向

二十三日 天長祭

二十五日 境内終日除雪作業

二十九日 ·年越大祓祭

境内周辺初詣駐車場除雪作業(終日)

三十一日 高岡市護国神社除夜祭 射水神社除夜祭

E

日 歳旦祭

高岡市護国神社歳旦祭

大祈願祭

院内社歳旦祭。 清水権祢宜出向

七

日

出初め式

一十七日

清水権祢宜教化委員会出向

十三日 十一日 交通安全協会祈願祭 富山青葉会年始挨拶の為、宮司出向

十四日 左義長

十八日 初詣奉仕者反省会

二十日 コンテスト」審査の為、祢宜出向 神社庁教化委員会主催 富山青葉会主催「七五三写真

の為、 「作文コンクール」打ち合わせ 清水権祢宜出向

十一日 宮司、宮内庁等へ年始挨拶の ため東京出向

一十四日 十二日 ブライダル相談会開催

青葉会主催、初詣参拝旅行へ 宮司·武内出仕

三十一日 神青主催「寒中禊」へ炭谷・ 中山事務員・石橋巫女出向

清水両権祢宜・武内出仕出向

月

日 節分祭

六 日 清水権祢宜「作文コンクール」 校正の為富山市出向

日

本日付け武内権祢宜、

日 射水協賛会新年会

十一日 紀元祭

五

日 日

神青総会の為、

ブライダルフェア開催 麻生巫女、辞令交付

十五日 十三日 奉賛会理事会開催 神社庁高岡・新湊支部神職会

十七日

十九日 ブライダルフェア開催

一十四日 防火管理講習会の為

十八日

日吉社春祭

四日

高岡市護国神社後日祭 高岡市護国神社春季大祭

九日

教化委員会全体会議へ

祢宜出向

祈年祭

十三日 十二日

高岡市護国神社前日祭

炭谷·清水·武内各権祢宜出向

巫

女

子

炭谷権祢宜出向

月

二十三日

射水神社春季例大祭

二十二日

射水神社春季例大祭前日祭

六 日 清水権祢宜、 作文コンクール表彰式」参加

十八日 二十二日 石橋巫女、神楽講習の為 武内出仕、初任神職研修会参加 白山比咩神社出向

二十六日 二十五日 二十三日 二十七日 清水権祢宜、奉納書道展打合会参加 宮司、神社庁親子参宮旅行出向 炭谷権祢宜、神青中央研修会出向 宮司、武内出仕、石王丸巫女、

講習会終了報告祭参列 石橋巫女、白山比咩神社神楽

二十八日 清水権祢宜、教学研究大会参加 の為、神社本庁出向

三十二日 武内出仕、権祢宜辞令交付の

神社庁出向

匹

月



三十日

院内社春祭

二十七日

二十五日

宮司、富山縣護國神社春季大祭参列 射水神社春季例大祭後日祭

富山青葉会総会へ宮司・祢宜・清水出向

一十四日

 $oldsymbol{\mathcal{H}}$ 月

十三日 七 日 日 宮司、 ブライダル相談会開催 白山比咩神社例祭参列

十四日 悪王子社春祭 ブライダル相談会

二十三日 二十二日 包丁塚祭 責任役員会開催

二十六日 二十五日 拝殿移設工事起工式 奉賛会総会



新 平成十八年四月 麻 任 生 友



水神社

5

一日

▶北前船の復元模型

Щ の薬 売

IJ

株式会社「室屋

社長

室谷

晃

司

中心地である〈天下の台所〉大阪ま 海を通る西回り航路で、直接商業の で運ばれるようになりました。 を食べる地域は時代とともに広がって には、北前船を使い下関から瀬戸内 を船で渡って、京都に送られていました。 そこから陸路を通り、琵琶湖(滋賀県 まで船で運ばれるようになりました。 いきました。この昆布が運ばれていっ た道を、「こんぶロード」と呼びます。 海上交通が盛んになった江戸時代 室町時代には、越前国敦賀(福井県) 蝦夷地(北海道)の開拓以来、こんぶ

山の薬売り」と呼ばれた薬売り商人 薬業が大きな産業でした。「越中富 この頃、富山藩(富山県)では売 北は松前藩 (北海道)から、 島県) 藩(鹿児 ま 売ってい 回り薬を で全国を

たちは、

清に昆布を輸出して大きな利益を 富山の薬売りが

と引き換えに、藩内で商売をするこ 北前船で松前から昆布輸入すること 得ていた薩摩藩は、

薩摩―清へとのびた「こんぶロード」 が生まれ発展していきました。 をつなぐ役割を果たしていました。 とを認めていました。 こうして、富山独自のこんぶ文化 「越中富山の薬売り」は、 松前—



御神恩をいただき、幸おおからん事を。

木	1177	11.		12		
1	昭	佳	•	美	奈	
本	大	介	ď	由	規	
橋	克	守	٠	真	子	
田	行	弘		康	子	
森	俊	行	٠	裕	子	
池	200	淳	. 6	瑞	香	
村	昌	規	•	静	香	
平成 18年1月						
出	波	男	٠	由紀	子	
2月						
金	良	成	٠	愉巴	子	
井	p i j	学	٠	由美	子	
本	基	行		千	秋	
					香	
	橋田森池村18出金井	橋田森池村18年1出出金井	橋田森池村 18年1 18年1 18年1 18年1 18年1 18年1 18年1 18年1 18年1	橋田森池村 B年1月 出 良 成 学 ·	橋 克 守·真 田 行 弘·康 森 俊 行·裕 鸿 鸿 超 月 月 日 日 版 明 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	

3)	1	- 3	4			3
山	下	裕	義	٠	康	代
河	合	清	貴	٠	飛	鳥
米	澤	勇	人	٠	理	可
小	林		崇	٠	佳	子
日	詰		篤	٠	佳	世
本	江	敏	彦	٠	順	子
山	崎	祐	_	٠	陽	江
4月						
釣	谷	達	也	٠	美	保
出	口	61	豊	٠	静	香
进	36	宏	和	·	理約	会子
石	12	2.2	,		2004	
711	井	敏	忠	٠	小百	百合
長	井津	戦	忠宏		小和紀	合子
					紀	_

森	田	和	行		真	弓
5 J]		12		10	P.B
荒	俣	憲	行		ゆれ	h n
澤	59	英	卓		理	恵
]1]	尻	光	男		久	美
村	田	英	数		夏	実
木	下	義	章	٠	ゆた	h n
水	林	æ	裕	٠	陽	子
名	原	gr;	良	٠	晶	子
島	田	健力	上郎	ŀ	裕美	美子
林	Ьó	寿	郎	٠	14811	
太	田	重	徳	٠	圭	子
武	部	吉	宏		恵	美
西	野	秀	己		和	美
原		ΞĀ	淳		喜	久枝

平成 17 年 12 月~平成 18 年5 月挙式の方々

6

「二上山の賦」

射水川 にほへる時に 出でたちて さける盛りに 秋の葉は 二上山は 春花の ふりさけ見れば神からや い行き廻れる 0 玉くしげ

朝なぎに 夕なぎに 満ち来る潮の 裾廻の山の 渋渓の 崎の荒磯にすそみ やま しぶたに さき ありそ 見がほしからむ。皇神の 寄する白波 (J

いや増しに

そこば貴き山からや

今の現に斯くしこそ 見る人ごとに 懸けて偲ばめ 絶ゆること無く
古ゆ

(巻十七、三九八五)

神が尊い神であるために気高く仰がれるの 節に、たちいでて遠く眺めると、二上山の 春の花の満開の時も、秋の紅葉の美しい時 か、山の姿が美しいから常に見たく思うの (射水川が麓をめぐって流れる二上山は

年)二月家持は国府館で病に冒され

患に悩み、死ぬような思いをした

したのであろう。天平十九年(七四七 二上山の四季の変化の美しさに感動

重

にかけて、貴び偲ぶことであろう。 今日まで、この二上山を仰ぎみる人は、心 白波や夕凪の頃に満ちてくる潮のように いよいよますます絶えることなく、古から ぐる渋渓の崎の荒磯に、朝凪の頃に寄せる だろうか。 神の鎮まります二上山の裾をめ

⑥二上神と大伴家持

て赴任した家持は、奈良の二上山と及ぶ。奈良の都より越中の国司とし 懐をもち都を恋しく思い、あわせて 同名のこの山を朝夕眺め、特別の感 半数の二百二十首までを越中で作っ る。国府は現在の高岡市伏木古府に ながら数々の長歌・短歌を詠んでい 赴任し、約五年間まつりごとを執り 伴家持が越中守となり、国司として それより遡ること三十四年前の天平 は、長歌・短歌を合わせて十一首に ている。その内、二上山を詠んだ歌 首の歌を万葉集に残しているが、約 れている。家持は生涯で四百八十余 ある勝興寺付近がその館跡と伝えら 十八年(七四六年)に万葉の歌人大 賜ったのが、正史上の初見であるが 皇の宝亀十一年に従五位下の神階を 二上神の神名が奈良朝の光仁天

> そのままかと、神々しく見えた時「二 やその周辺の絶景はまさに神代の古 二上山はホトトギスが鳴き、二上山 は澄み渡り全山萌黄若葉に覆われた うである。四月も近くになると、空 上山の賦」と題した長歌を詠んだ。 三月下旬には快方に向かったよ

そこば貴き 山からや 見がほしの美しさを称える。また、「神からや比しつつ、季節ごとに変化する自然 のを「皇神」と称している。 「皇神の 裾廻の山の」では山そのも 「皇神の 裾廻の山の」では山そのも すきぎる すきぎる 山と秋の紅葉のみられる二上山と対 た形で歌い出され、春の若葉の二上上山」と、射水川と二上山が相応じ を伝える最古の文献資料である。「射 山が神の山として仰がれていたこと も傑作といわれ、二上山の自然の美 からむ」で、二上山の神性にまでさ しさを写実的に表現しており、二上 この長歌は家持の多くの歌の中で い行き廻れる 玉くしげ



二上山にある大伴家持像

力の程お願い申し上げます。 るとは存じますが、何卒ご理解ご協 及ぶ工事の期間中は、ご参拝のみな さまに、多大なるご迷惑をおかけす 工事が開始されます。 いよいよ本年六月より社殿拡幅 約三ヶ月間に

野に咲く花の在るべき姿も忘れたく 大地に根を張り懸命に花を咲かせる き、多種多様な花の中の個性豊かな と春の花の総名が「花」であるとし 桜の事ながら、すべて春の花をいう」 ございます。万葉の時代には「梅. 菜の花畑からのぞむ二上山の写真で 花の中の一輪であっても、 オンリーワンである事より、 しい花であります。ある歌謡曲の如 賞用に親しまれている春に咲く愛ら たし」はもちろん、最近では主に観 ています。今回の表紙の菜の花もま 近世俳諧の確立以降は「花というは が、またその後は「桜」が「花」と はないものです。 して歌に幾多も詠まれてきましたが、 表紙の写真は小矢部川をはさみ、 菜種油の抽出や「菜の花のおひ しっかりと 同種の

印刷所 F A X 発行所 TEL 〒九三三-00四四 高岡市古城一-キクラ印刷株式会社 (〇七六六) 二二一三二〇四 射水神社 (〇七六六) 二二一三七一五

射水の大神様、

ご両家のご親族の皆々様に見守られて、

夫婦固めの盃をとり交わします。



夫の婦と の 道 結 び 古 献むる の 儀



フルートで結ばれた辻様ご夫妻 平成 18 年4月8日挙式

婚礼相談会

平成 6月4日(日) · 11日(日) · 18日(日)

10:00~18:00

■相談会・結婚式場、披露宴会場見学・ 婚礼ビデオ上映

うつくしの杜 夏フェスタ

※ プチブライダルフェア

^{平成}7月2日(目) 10:00~18:00

■模擬挙式・会場コーディネイト展示・ 衣装・引出物・婚礼アイテム展示・相談会

うつくしの杜、結婚式場

射水神

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問合せ 🏉 (0766)

U R L http://www.imizujinjya.or.jp Eメール jinjya-k@mbs.sphere.ne.jp